

週刊センターニュース No.163



第163号(2007年6月18日)毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第151回共同学習会のご案内

以下の通り、富山、金沢、福井を双方向授業システムで結んで行います。また、通常の曜日と会場が異なりますのでご注意ください。

日時：6月20日(水)16時30分～18時

使用教室：金沢大学角間キャンパス総合教育棟D14講義室(小教室)

富山大学 小教室(人文・社会系共通教育棟427番教室)

福井大学 文京地区大教室(総合棟総大2講義室)

テーマ：後期開講「北陸学総論」の授業企画について

発表者：「北陸学総論」授業担当者

趣旨：今年度後期に開講される富山、金沢、福井3大学共同授業「北陸学総論」の担当者により、互いに授業内容について把握するとともに、相互の連携について意見交換を行う。担当者以外の教員の方々にも参加していただき、3大学での共同授業の今後についても議論したい。

教育と研究とFD

6月2日(土)、東北大学で開催された国際シンポ「研究・教育のシナジーとFDの将来 - 教員・部局・全学の有機的連携」に参加した。FDの法的義務化を受けて昨年後半から、前号センターニュース掲載の大学教育学会をはじめとして、大学教育に関する主要なフォーラム、学会においてFDは必須テーマとして取り上げられ、活発に議論されてきている。

近年のFDに関する全国大学調査(国立教育政策研究所2006年実施、広島大高等教育研究開発センター2003年実施など)にもとづき、FDの普及状況、組織化のあり様に関してトップダウン型かボトムアップ型(相互研修タイプなどがこれにあたる)のいずれであるか、教員の意識にどういった変化があったかという制度的な議論をはじめ、諸外国におけるFD(教育改善)担当組織やプログラムの実態の紹介も相当に蓄積されている。しかし、さらに一步を踏み出し、伝統的なテーゼとしての教育力と研究力の相互向上(一致)という視点からFDのあり方を再考しようとする動き、また具体的にどのようにFDプログラム・サービスを開発し活用していくかについての議論が目立ち始めている。それらの議論の内容と、これまでの反省に立って、大学教育センター群、地域コンソーシアム、専門職団体を中心とする従前のFD事業・活動をさらに発展させるために、上記のシンポにおいて羽田貴史氏(東北大学高等教育開発推進センター教授)が提起した課題は、重要であると思われるので、いくつか挙げてみると、

- (1) 機関の側からのFDの定立(設置基準上の規定は、この段階とみている)だけでなく、個人の側からもFDを位置づけ、その調整原理を明らかにしなければならない。
- (2) 一方的で知識の一斉伝達に終始する講演型FDを、教授技術レベルやキャリア・ステージがそ

それぞれ異なる教員にとっては非効率で、もっと教員個人のキャリア・能力開発の観点を取り込むべきである。

- (3) 有効なプログラムを開発するために、大学教員のキャリア形成のメカニズム、さらに具体的に教授能力を明確に定義し、教授能力向上のためのメカニズム研究を進める必要がある。
- (4) 教員のステージや役割変化(新任・中堅クラスや年齢に応じて)に対応し、教員と組織との調和を図るために、個人・部局・全学での分担と連携が不可欠である。
- (5) 研究能力と教育能力、学生の指導者としての倫理を備えた大学教員の養成という責任を果たすために、(研究大学を中心に)大学院段階から大学教授法など関連するプログラムの開発・普及が一層求められる。

これらを考慮した場合、観点のいくつかはすでに取り込んで、長年の実践に裏打ちされ、他校への波及効果も相当に高いものとして、京都大学、名古屋大学の関連大学教育センターの活動(京都大の公開授業・研究会や大学授業ネットワーク(詳細は、<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/>で参照可)名古屋大の各種ティップス(教員・院生・TA用)や大学教員準備プログラム(詳細は、<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/service/>)がつとに有名である。が、とくに注目すべき取組を推し進めているものと、今回のシンポで思ったところが愛媛大学(メインの担当組織は、教育・学生支援機構教育企画室)であり、例えば活動一つをみても、レベル1(導入段階)からレベル5(支援・指導段階)に亘り、10数種類の各種講座・ワークショップで構成され、教員一人ひとりの多様なニーズに応えられる形となっている。さらに全国的にみても特異な取組として「ファカルティ・デベロッパー養成講座」を今年3月に立ち上げた。この養成講座では、大学の文脈に合わせた企画力を有する研修インストラクター・授業コンサルタント、カリキュラムコンサルタントを目指しており、外国のプログラムの移入にとどまらないで、日本土着の持続的発展的な大学教育改善のための基礎作業とみることもできる。本学はもちろん大学タイプ・規模などに関係なく、大いに参照すべきであろうと思われるので、今後情報収集を図りたいと考えている。(文責:評価システム研究部門 渡辺達雄)

新着図書のお知らせ

大学教育開発・支援センター教育相談室(総合教育棟南棟6階602号室、センター共同室の隣です)に、以下の図書が入りました。是非ご活用下さい。

- ・宇田光、大学講義の改革:BRD(当日レポート方式)の提案2005.5(北大路書房)
- ・溝上慎一、大学生の学び・入門:大学での勉強は役に立つ!2006.3(有斐閣)
- ・中井浩一、脱マニュアル小論文:作文と論文をつなぐ指導法2006.8(大修館書店)
- ・佐藤望・湯川武他、アカデミック・スキルズ:大学生のための知的技法入門2006.10(慶應義塾大学出版会)
- ・専修大学出版企画委員会、知のツールボックス:新入生援助(フレッシュマンおたすけ)集2006.4(専修大学出版局)

高等教育に関連する学会・セミナー情報

- ・6月23日(土)午後3時~5時 第76回公開研究会「大学英語教育の「システム」が抱える問題と解消の仕方-教育ガラパゴスの不思議な進化-」(京都大学高等教育研究開発推進センター)
会場:京大会館102会議室。詳細はhttp://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/76koukai_kenkyukai.pdf
- ・6月23日(土)午後3時~6時 連携記念シンポジウム「大学改革と職員の役割」(国立大学マネジメント研究会、大学行政管理学会)
会場:東京国際フォーラム。詳細は<http://www.ne.jp/asahi/juam/office/20070623symposium.html>